
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第158号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2005.05.12 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

*****発行部数 1433 部*****

□ 目 次 □-----

<今週の提言> JR西日本の脱線事故から考えること 渡邊 博

<旬を食べる—野良からの便り・23>

“タラボ(タラ)の芽—山菜の王様” 小泉浩郎

<80才からのメッセージ>

中国侵略の記念日9月18日を忘れるな!靖国神社参拝を止めよう。 原田 勉

<日本たまご事情> incheon 空港 齋藤富士雄

<老兵の戯言>

新時代の「畜産学・獣医学」は新「動物科学」として? 藤原 昇

<高齢者の健康情報> 「もの忘れ」は「ボケ」のはじまりか。 原田 勉

<山崎農業研究所情報>

◇第117回定例研究会—海外農業・国際協力関係—速報(その1)

1. 世界の水資源と最近のICIDの見解

—谷山重孝氏 [ICIDアジア会議議長]

<サイトPRにルーラルネットのご利用を>

<推薦新刊紹介>

【1】松坂正次郎著『続・尾灯』

【2】林 尚孝著『仮面の人・森鷗外』「エリーゼ来日」三日間の謎

<編集後記・同人の近況報告> 4月21日~5月11日

<今週の提言> JR西日本の脱線事故から考えること

JR西日本福知山線の脱線事故にはどうしても触れざるを得ません。巷間言われるように、利益優先主義、効率第一主義が招いた事故であろうことは全く異論がありませんが、昨今の犯罪や自殺の多発の背景にも通ずる、ゆとりのない、非寛容な今日の社会に目が移ってしまいます。

昨今、スローライフやスローフードが話題になり、あたかも日本は効率至上主義からゆとりを求める成熟した社会に移行しつつあるような論調が時として見られますが、今回の事故を見て、これは大いなる錯覚ではないかと思えてなりません。むしろ、社会の動きは熱に浮かされたバブルの時代よりも効率主義が強まっているのではないか、「ゆとり」や「潤い」は、所詮個人レベルの願望でしかないのではないかと。

実際、私の周囲を見渡すと、生活や仕事は以前に比べて明らかにゆとりを失っています。受注単価は大幅に下がっているにもかかわらず、与えられる時間は短く、逆に仕事量は増えるばかりです。スローな生活を満喫するような余裕はどこにもありません。この国は皆が生き残りをかけて必死にもがいているのが現実なのだと思います。個人的な価値観や願望だけでスローライフが定着するとはとても思えません。

ちょっと電車で遅れがでただけで駅員に声を荒げて詰め寄る利用者を何度となく見かけたことがあります。乗客同士の喧嘩は日常茶飯事です。春闘ストが当たり前だった時代、マスコミは先陣を張って国民無視のストなどと批判し、ある診療所は国労の家族の診療を拒否するという事件がありましたが、おかしいぞという声はあまり聞いた覚えがありません。イラクの日本人人質事件での被害者パッシングしかりです。知らず知らずのうちに、非寛容な風土、文化がこの国に育まれてしまったのでしょうか。

何気なく安易に使ってきたスローライフ、スローフードという言葉は、実は私たちの国の在り方を考える上で非常に重要なキーワードではないかと、今回の事故を通じて考えるようになりました。個人の「スロー」な生活や食文化を寛容とゆとりで下支えするスローソサエティーを実現するために、私たちは何をすべきなのか、もう少し深く考えていきたいものです。

渡邊 博

太陽コンサルタンツ（株）

y.nouken@taiyo-c.co.jp

連休、タラボの穴場に出かけた。例年より遅れてしまったが、案の定、新芽は大きく開き旬はすっかり外れていた。タラボの芽の収穫適期は、難しい。芽の伸び具合をグー、チョコキ、パーとすると、ほころびかけたチョコキ当たりがよいとされる。しかし、本来の味と食感、そしてほのかな香りを楽しむには、チョコキとパーの間、ややチョコキ寄りが適する。

スーパーでパックの中に整然と鎮座しているタラノメは、野生のタラボーとは違う。栽培用に選抜されたものの温室育ちだ。グーに近いチョコキで小粒だ。天然もの特有の癖が少なく1口で食べられると人気がある。

だが、山菜の王様と呼ばれるタラボーの芽は、野生に限る。野生にも2種類ある。モチタラ（女タラ）とオニタラ（男タラ）だ。モチタラは、棘が少なく芽も大きい。ボリュームのある芽は、モチのような食感が楽しめる。オニタラは、棘が多く芽にまで棘がある。芽もモチタラと比べると小さく細いが、こちらの方が野趣がある。まず、芽を摘むまでに難行する。棘に覆われた木は2〜3mある。その頂きの芽を摘むには、木を斜めに抑える人、頂きを手の届く所まで曲げる人、頂芽を注意を払って折る人、2〜3人が掛かりだ。収穫した新芽にも棘があるから、若芽がよいが、てんぷらなら、口の中で多少痛いぐらいが美味しい。

食べ方は、第1はてんぷらだ。衣を薄くするのがコツ。揚げたてを抹茶塩で食べる。おひたしもよい。沸騰した湯に塩少々、1分間の茹でたてを生醤油ちよっとで食べる。ゴマ和え、焼きタラボ、五目御飯と楽しみ方は多い。ただ、くれぐれもよく似たウルシの芽と摘まないこと。てんぷらでは美味この上も無いと云われるが、病院送りになる。

このところ、野生のタラボーが立ち枯れしているのが目立つ。特に人目のつく道端に多い。心無い人間の乱穫のせいだ。もともとタラボーは、生育が旺盛である。頂芽を摘めば、側芽が伸び、側芽を摘めば胴芽がふく。ところが頂芽も側芽も胴芽も摘んでしまうから枯れてしまう。山菜のプロは、頂芽しか摘まない。側芽、胴芽を来年のために残す。それがルールだ。もっとも頂芽がいちばん美味しい。

小泉 浩郎

山崎農業研究所事務局長

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<80才からのメッセージ>

中国侵略の記念日 9月18日を忘れるな！靖国神社参拝を止めよう。

中国の若者たちの、「反日デモ」は、日本の政治、経済を大きく揺さぶった。
小泉首相の靖国神社参拝問題が根底にある。

私は、日本人として、小泉首相の靖国神社問題参拝を容認している日本のマスコミと自民党支持者を情けなく思う。

中国や韓国の指導者がそろって「日本の歴史認識を改めよ」という主張の方に道理があると思う。

日本がアジアの平和を乱したのは、近くは、明治時代の日清・日露戦争にさかのぼるが、最も強烈なのは「満州事変」を起こした昭和6年（1931年）9月18日に始まる。関東軍（*注）が、柳条湖で中国軍隊を攻撃したのである。この日本軍の暴挙を時の政府は容認した。その当時の軍首脳が現在の靖国神社に合祀されている。

小泉首相は、国のため、英霊となった戦死者に敬意を表して参拝するというが、その英霊が死なねばならなかったのは、国の指導者が誤って中国侵略を進めたためであり、兵士は犠牲者である。

中国では、9月18日を国辱記念日とっている。日中戦争の開始、昭和12年（1937年）7月7日（蘆溝橋事件）の日中戦争のことではない。その6年前から明らかに中国の主権を武力で攻撃し、侵略したからだ。

小泉首相をはじめ日本の政治家は、この認識がない。日本のマスコミも政府の論調に同調し、教科書会社も、それに乗っかっている。

これが間違いだ。「礼」を失っている。

この間違いを率直に反省し、中国・韓国に謝って、靖国神社への参拝を止めるべきである。

実は、私の義兄も靖国神社の祭神になっている。昭和13年（1938年）8月20日、中国武漢三鎮攻略戦で戦死したからである。

それでも、私は靖国神社には参拝しない。東条英機をはじめ戦争犯罪者が合祀されているからである。

日本人として、儒教の教えに従い、礼儀を重んじて、中国・韓国と友好を続

けたいからである。

(※注) [旅研]

<http://www.tabiken.com/>

の「世界歴史データベース」から、

関東軍

<http://www.tabiken.com/history/doc/E/E087C100.HTM>

満州事変

<http://www.tabiken.com/history/doc/R/R241L100.HTM>

柳条湖（柳条溝）事件

<http://www.tabiken.com/history/doc/T/T099C100.HTM>

蘆溝橋事件

<http://www.tabiken.com/history/doc/T/T260C100.HTM>

日中戦争

<http://www.tabiken.com/history/doc/N/N379L100.HTM>

<その他参考リンク>

Yahoo!ニュース・靖国神社参拝問題

<http://dailynews.yahoo.co.jp/fc/domestic/yasukuni/>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<日本たまご事情> incheon 空港

ソウルでの家禽学会シンポジウムもどうやら無事に終えて、韓国の古くからの養鶏仲間とともに夕食をとった。堅苦しいシンポジウムから開放されたこともあり、お互いに本音が出て楽しい会となった。ヨンさまブームでいまだに来る時の飛行機は日本の若い娘さんからオバサンにいたるまで一杯であったことから始まって、両国の鳥インフルエンザの発生にいたるまで話題は尽きなかった。

話が最近完成した inchoen 空港のことになった。私も始めてその空港に降り立ったわけだがその規模の大きいこととても成田空港の比ではない。韓国の人

たちはこれが嬉しくて、盛んにこの自慢話をしていた。やれこれからはアジアの中心になるのはこの inchoen 空港で成田空港ではないという。また世界のハブ空港ともなれば人の流れは東京ではなくソウルになると自信満々だ。聞いてて内心面白くないが事実なのだから仕方がない。

韓国の人たちは私たちが思っている以上に日本のことを意識している。スポーツの世界大会などでどこの国より日本に勝つことが嬉しいらしい。こんなことが親しい養鶏仲間であつてもちよいちよ顔を出す。外国を旅しその国の人たちに会うことはとても楽しいがそればかりではない、悪口を言われれば腹が立つ。いつの間にか自分が日本人を意識しているのがわかる。

齋藤 富士雄

(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

<老兵の戯言> 新時代の「畜産学・獣医学」は新「動物科学」として？

水飲み百姓の倅で、大学農学部の畜産学科に学び、畜産関係の職を得て、それを転々とした後、最後は大学畜産学科の教師として、第一の人生を終えた老兵が、最近、妙なことを考えるようになった。

定年退職後、第二の人生を歩み始めて3年が過ぎた。今、近隣の私大や短大で、「地球環境科学」に関することや「動物と人間の関係」などの講義をしている。とくに、最近、地球上で起こっている自然現象の激変や動物と人間のゆがんだ関係について、学生諸君と論議している。現職時代とは異なった学問分野であり、全く新しい視点から、幅広く勉強しなければならなくなった。

勉強していると、これまで筆者が学び、仕事として従事し、さらに人生の最後には、研究・教育として没頭した「畜産学」という学問分野に、疑問を持つようになった。

例えば、最近では、牛の病気や鳥インフルエンザなど、人類に重大な影響を及ぼす新しい疾病が発生し、生命が脅かされるようになった。これらの媒介が動物であると言われ、地球上に生きている動物、すなわち家畜や野生動物と人間の生活とが密接に関連していることが論議されている。

とくに、最近の畜産学や獣医学、さらには伴侶動物あるいは家庭動物など、人間と動物の関係が、昔のように単純に区別できない状況になってきた。最近では、我々の身近な場所に生息している野生動物、例えば、熊、猿、猪などが、住宅地に出没して、時には人間に危害を加えるようになってきた。

これが大きな社会問題となっているが、その対策が後手、その場しのぎの一次的なものばかりである。対策をみても、熟考したという視点は少なく、素人が勝手なことを言っている状況である。根本的には、何の解決にもなっていないのが正直なところである。

そこで、筆者は考えた。人類と動物に関する諸問題を総合的に解決する学問分野として、これまでの「畜産学」や「獣医学」に「動物園動物」と「家庭動物・伴侶動物」を加え、総合的に動物全般を学ぶ、大きな学問領域として、「動物科学」を創設し、研究と教育を行ってはどうか、という発想である。

現に、今の「畜産学」や「獣医学」では、極度に細分化され、俗にいう「重箱の隅をつつく！」的発想で、全てが進んでおり、それぞれの原点である「家畜」と他の動物達は、どこか置き去りにされてしまっている。これでは、本来の学問・教育の道を大きく外れてしまったことになる。

しかし、新しい学問領域では、内容が膨大になるので、修業年限は6年以上にしなければ「薄っぺら」な学問・研究として嘲笑・罵倒されることにもなりかねないので、十分・慎重に検討する必要があることは言を俟たない。

それにしても、こんな「戯言」を考える歳になってしまったのか？ 残念！

藤原 昇
山崎農業研究所会員
福岡女子短期大学・特任教授
y.nouken@taiyo-c.co.jp

<高齢者の健康情報> 「もの忘れ」は「ボケ」のはじまりか。

歳をとれば誰でももの忘れが多くなります。

人によっては差はありますが、早い人は 60 歳ぐらいから急にもの忘れが多くなることに気がつきます。

人の名前を忘れる、漢字を思い出せない。よくあることです。人との約束を忘れる、通知や締め切りを忘れるということが何度かあると「ボケ」たのではないかと心配になります。

しかし、忘れたということ自分で自覚している段階では「ボケ」ではありません。

「ボケ」ているという認識がなくなっているのが本当の「ボケ」です。

どこまでがもの忘れか、どこからがボケなのか、判定が難しい。たとえば、同じ話を何度も繰り返す。過去の話未来の話として繰り返すのは、要注意です。

今までになかったミスが急に多くなるのは「ボケ」のはじまりの可能性があります。

また方向音痴でなかった人が、来た道に戻れない、道に迷い易くなったら、ボケの初期症状かもしれません。

「ボケ」の特徴は、次の 6 つのパターンがあります。そのうちどれかの症状が見られたらボケの診断の目安になります。

最も多く共通するのは、覚えていたはずのことを忘れてしまっていることです。古い記憶よりも、新しい記憶が無くなるのです。例えば、食事を終えた直後に、食事をしたことを忘れてしまうのは初期によく見られます。

次に、自分は、「いま」「どこに」いるのか、周りの人は「誰か」が分からなくなることです。また、簡単な計算ができなくなる。感情が移りやすく、被害妄想がよく見られること。物事を筋道立てて考えられない。的確に判断できない。ひどくなると、異常行動を起こし徘徊などがみられるようになります。

以上をまとめると、1、記憶力・記憶障害、2、見当識紹介、3、計算力障害、4、感情障害、5、異常行動、6、思考力障害、となります。

現在、ボケの検査には、画像で脳の変化を見れば、アルツハイマー型か脳血

管性の痴呆か判断できるようになっています。

早いうちなら薬でかなり良くなることもあります。詳しくは次の本を見て下さい。

『ボケにならない、進ませない』大友英一 監修 講談社発行
2002年発行 定価 1200円＋税

http://shop.kodansha.jp/bc2_bc/search_view.jsp?b=2593211

●主な目次

- 1, ボケの危険サインを見つけよう
- 2, なぜボケてくるのか
- 3, ボケはどこまで治療できるか
- 4, ボケた人とどう付き合うか
- 5, ボケを予防する。

提案, ボケ予防 10 箇条を心がけて生涯現役

<参考リンク>

Mainichi INTERACTIVE ぼけ予防協会
<http://www.mainichi.co.jp/life/bokeyobou/>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人
原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<山崎農業研究所情報>

◇第 117 回定例研究会—海外農業・国際協力関係—速報 (その 1)

2005 年 5 月 7 日 太陽コンサルタンツ会議室 20 名参加

[講演要旨]

1. 世界の水資源と最近の I C I D の見解

—谷山重孝氏

[I C I D アジア会議議長*・(社) 地域資源循環技術センター特別顧問]

* I C I D : 国際かんがい排水委員会

1) 20 世紀の水利用の概観

最大の水利利用者は農業であり、世界の水利用年間 3.3 兆 m³ のうち 69% を占める。そのうちの 70% が水田灌漑。1900 年から 2000 年の間に人口は 3.8 倍、水利利用は 6.6 倍、灌漑面積は 5 倍となった。水資源量と利用量からみた資源豊富型はカナダ、チリ、USA、絶対不足型はケニア、エチオピア、ニジェール、ジンバブエ、などである。日本はその両者の平均的なところにある。アフリカは水不足状態にあるが、中でも水ストレスの高い国はエチオピア、マラウイ。一人あたりの水利利用の少ない国は乳幼児死亡率も高い。

2) 21 世紀の水資源と灌漑

現在は、生活用水の増加、灌漑用水の増加、環境維持用水の確保の必要性、新規水資源開発の困難性、などがあり、水不足に対応した農業用水の利用が求められる。そのために節水技術の向上、参加型水管理（PIM；受益者が用水の配分、操作、維持・管理をする）、価値の低い用途から高い用途への水の再配分、再利用、穀物貿易に頼る仮想水（バーチャルウォーター）、などの方式が考えられる。

世界的には灌漑面積は増大したが、今後は一人あたり農業用水の年間水資源量は減少し、1995 年から 2025 年には 6,600m³ → 4,800m³ と予測される。生活用水の増大は著しい（43% 増）。ICID では水市場を通じて水価格を決めることを最終目標にしている。水の持つコストを環境コストと財務コストに大別している。

PIM 方式のメリットは国の負担軽減、管理の質の向上、生産性の向上などがあるがデメリットとして農民管理組織結成の困難性、インセンティブの不足、現状組織の変更の困難性、政府と農民の役割分担、組合費徴収問題、などがある。

3) 世界の水論議と ICID の戦略

水資源・ダム開発、バーチャルウォーター、コストの回収性の向上、節水灌漑、PIM を各国の条件に即して考える。とくにバーチャルウォーターについては土地、水のあるところではそれらを生かして生産力を上げる。コストの回収性については財務コスト回収の重要性、回収の透明性が考えられる。これは食料安全保障に重要な役割をもつ。節水技術については作物品種改良、作物転換、栽培方式の改良、精密灌漑法などの導入がある。安全保障について日本は輸入（バーチャルウォーターを含む）に頼らざるをえない。水利利用には、わが国にはその利用効率と生産性の向上が求められる。

4) アジアモンスーンの立場から

アジアの灌漑と米の重要性については世界の水利用の半分がアジアの利用であり、その9割が米生産である。そして世界の米の9割がアジアで生産されている。水田灌漑の特徴は乾燥地域とくらべ、社会性、経済性、および技術性において大きく異なる。アジアモンスーンでは降水量の時期的変動が大きく投機的になるおそれがある。水田用水の多面的機能を市場価値に評価できない。水田の水は反復利用されているなど共同体社会で水が利用されている。以上のような水の価値付けの難しさがあるので、水利用には時期に対応した一時的な取水転用を行い、恒久的な転用は避けることである。

ICIDは以上のような見地で、世界の灌漑、排水、洪水防御、のための土地資源管理、技術、技術、環境、社会科学を研究・技術移転を進めている。

(文責：安富六郎)

<サイト PR にルーラルネットのご利用を>

読者のみなさんの中にもご自分の家業や会社・団体にサイトを運営されていることと思います。

農山漁村文化協会のルーラルネット

<http://www.ruralnet.or.jp/>

のリンク集

<http://www.ruralnet.or.jp/links/links.html>

では、そんなみなさんのサイト PR を無料で承っています。

アクセスアップに是非ご活用ください。

リンクのご希望は

rural@mail.ruralnet.or.jp

まで電子メールでお願いします。

- 最大 100 字ぐらいで、どんなサイトなのか、特色はなにかなど、紹介文をつけて下さい。
- リンクするかどうかは、拝見してから検討させていただきます。
(当サイトの趣旨にそぐわないものでなければ、これまでほとんどすべてのご要望にお応えしています)。
- 次回の更新まで日数がかかるかもしれません。また、リンクご希望のメール

にはご返事をお出ししないことがあります。ご了承下さい。

●あなたのサイトからのリンクもよろしく願いいたします。

<推薦新刊紹介>

【1】松坂正次郎著『続・尾灯』

【2】林 尚孝著『仮面の人・森鷗外』「エリーゼ来日」三日間の謎

★【その1】

松坂正次郎 著 『続・尾灯』 B5判 204ページ 切手 80円3枚+50円1枚

「農政と共済」(*注)という週刊誌のコラムを厳選して、1997年から今日まで、200編が収められている。選考は、山崎農研会員である橋渡良知氏。

<選者の言葉=含羞の雄叫び>によると、農政をはじめ、時の政治・経済、もろもろの社会事象など時流と情報に密着しながら、しかも古今東西の書や話に通じ、数字にも強く、独特な文章力を持っている。という。

これは今年、傘寿を越えた記念碑ともいうべく、戦後60年をサムライとして貫き通した証言となっている。

電子耕の読者にも広く読んでいただきたいと思い推薦する。

問い合わせ先；「農政の共済」編集部

電話 03-3264-2978 FAX03-3264-8427 松坂まで。

入手希望者は、次の要領でお申し込みください。

〒102-8411 東京都千代田区一番町19「農政の共済」編集部宛に

「『続・尾灯』希望」、郵便番号、住所、氏名を明記の上、

80円切手3枚と50円切手1枚を同封して送付ください。

現金は受け付けてませんので、ご了解ください。

(*注)全国農業共済協会 (N O S A I)

<http://www.nosai.or.jp/>

発行のN O S A I 団体中堅・幹部職員向け週刊レポート「農政と共済」

<http://www.nosai.or.jp/library.htm>

体裁＝B 5判、8 ページ

内容＝N O S A I 制度と農政の動きについて解説するニュースレター

★【その2】

林尚孝 著 『仮面の人・森鷗外』「エリーゼ来日」三日間の謎

電子耕 156 号

<http://macky.nifty.com/cgi-bin/bndisp.cgi?M-ID=1283&FN=20050407154039>

で林尚孝氏（茨城大学名誉教授）が発表した興味津々たる著作が完成した。

『仮面の人・森鷗外』「エリーゼ来日」三日間の謎

という書籍である。

四六上製 240 頁 定価 2200 円＋税 同時代社 2005 年 4 月下旬刊

「本書の目的は、エリーゼの人物像を追求すると同時に、彼女が鷗外に残した大きな影響を明らかにすることにある。……「石黒忠直日記にある謎の 3 日間の記述から出発し、鷗外が軍医の辞表を提出してまでエリーゼと結婚するつもりであったことを論証しようと試みた。……エリーゼの来日から赤松登志子との離婚の間に、鷗外は処女作「舞姫」を発表している。この事件を念頭に置いて読み直してみると、この小説はエリーゼへの謝罪・鎮魂のための自己告発の書であるとともに、登志子への離別のサインを織り込んでいることが読み取れる。」（本文より）

ヤフーショッピングから表紙画像

<http://7andy.yahoo.co.jp/books/detail?accd=31531845>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<編集後記・同人の近況報告> 4 月 21 日～5 月 11 日

スローフード・スローライフという言葉が聞かれるようになって数年がたつ。

が、たしかに<今週の提言>で渡邊 博さんがいうように、わたしたちの暮らし自体は“ファスト”の度合いを強めているように思う。

スローライフを取り上げる雑誌は多数あり、テレビで食の番組のない日はない。しかし、そんな雑誌を混んだ電車の中で読み、家に遅く帰って一人食事をとりながらぼんやりとテレビを見ている自分にふと気づく。

『食べものと農業はおカネだけでは測れない』（コモンズ、2004年）で、総合農学を専門とする中島紀一さんは、スローフードは本来、食べるという行為を通じて、地域の風土にあったよい暮らし方をつくる取組みであり、スローライフは、手間をかけて、丁寧に、充実した生き方をし、そのプロセスに価値をおくことだと言う。

“スロー”な食や暮らしの在り方は、人間が誰でももっている当たり前の権利として捉えるべきではないか。いまのままでは、日本のスローフード・スローライフは“勝ち組”の食い道楽・余暇の過ごし方と同意語になりかねない。

山崎農業研究所会員・田口 均

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 159号の締め切りは5月23日、発行は5月26日の予定です。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735円 発行日：2002年10月4日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第158号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html

2005.05.12（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

***** ここまで『電子耕』 *****